
婦人会報

立教184年 2月

令和三年
2021年



天理教婦人会旭日支部 通巻 500号

婦人会報500号発行にあたり

今月号で婦人会旭日支部発行の『婦人会報』が500号になりました。静子奥様が第1号を発行されました時の思いは、旭日支部につながるどの委員部にも婦人会本部よりお打ち出し頂く活動方針や行事を遅れることなく伝えさせて頂きたいとのことからです。

月日が経ち毎月発行していく中で、こうして500号という号数を重ねさせていただきましたことは、ひとえに大教会長様、役員先生、教会長様方、常任委員をはじめ、関わって下さった方々、ご活用下さっている委員部長様方、婦人会員の皆様方のお陰と、あらためて厚く感謝申し上げます次第です。

会報係が毎月、表紙絵をはじめ内容を検討し、レイアウト、挿絵など、読まれる方に伝わるようにと苦心を重ねて例会日発行に間に合うよう発行しています。現在コロナ禍にあつて尚一層おぢばや大教会に帰れない方々のためにもと、旭日同士のつながりの意味も込めて作成しています。

デジタル化が進み、ペーパーレスも叫ばれるようになってまいりましたが、私などは手元に置いて何回でも読んだり、振り返ったり出来るので、まだまだ印刷する意義があると考えています。もちろんデジタル化としまして、現在大教会のホームページからアクセスできる体制をとっていますので、両輪でいきたいと思っています。

これからも旭日につながる方々の心に寄り添えるような会報内容を目指して発行したいと思しますので、今後もどうぞお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

立教184年2月5日

婦人会旭日支部長 岡本 道子



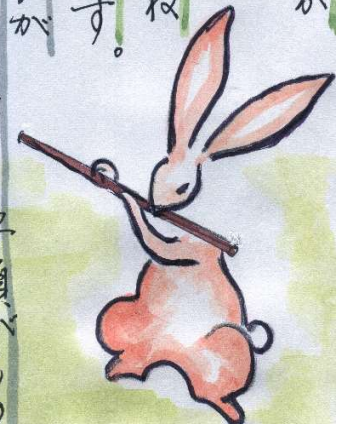
枯葉を分けてふきのとうが

顔を出しました

大地では春の準備が

始まっているのでしようね

いつもお世話になっております。



三年間 至らないながらもがんばりましたが

会報の表紙を担当させて頂きました。要領がもう

一ツつかめないうち、取り敢えず一月でしたので、お正月らしい

いもので、始めさせて頂きました。絵の心得のない分、言葉で

補えられれば、と因言しました。

天理中学 天理高校 それから五十年余りおちばはて

住まわせていたとて来ました。その間おちばの空気を

一杯吸わせて頂きました。勿論、足りない事はかりの

私ですが、自然に又、当り前に教えを感じる事が

出ました。何にも増してありがたかったと思ひます

毎月 神様の作品を手本に 言葉を探しながら

楽しく白い紙に向う事が出来ました。

これから今も大切に 遇って行きたいと思ひます。

本当にお世話になりました。有難うございました。

平成三十年一月から令和二年十二月までの三年間、表紙絵を担当して下さいました。細田節子さん（吉日分教会ようぼく）より、500号に寄せてお手紙を頂きました。

「婦人会報」

500号発行
に寄せて…

五〇〇号記念号、おめでとうございます。なかなか大教会にも行けず、会報によつて大教会の行事や会員の方の原稿を読ませて頂き、元氣をもらつたり、今の自分はこれでいいのか？と反省したりしています。いつも会報送付ありがとうございます。

増田 田中 洋子

「五〇〇号発行おめでとうございます。」

なつかしく思い出されるのは、三〇〇号の時に寄稿させて頂いた事。当時は、まだ五十歳。両親も健在で何の憂えもなく、ひのきしんの毎日を過ごしていました。

この一月から表紙を飾つておられる上田稔子さん。いつも穏やかでやさしい方。五〇〇号からの船出にふさわしい表紙。毎月楽しみです。

直轄 登 昌代

会報ひのきしんのお話を頂いた時は、私に務まるかと、大変不安でしたが、皆さんに仲良くして頂き、今では情報共有の場として、また、気分転換の場として楽しんでます。これからもたくさんの方に読んでもらえるようがんばりたいと思います。

旭乃井 吉本まさ代

毎月、会報の折り込みをしながら、係の方々にお道のお話を聞かせて頂いたり、相談につて頂いたり、楽しく充実したひのきしんをさせて頂いています。

コロナ禍の中、いろいろな制限がありますが、微力ながら大教会の御用をさせて頂きありがとうございます。

旭道 山村 千絵

婦人会報、通巻五〇〇号、おめでどうぞございます。毎月、表紙デザインを楽しみにしております。

新型コロナウイルスで中々、おちばにも大教会にも帰らせていただけない中、会報にておちばの様子や婦人会活動など知ることが出来てありがたいです。

菊都 都筑 由恵

奥様方の会報に対する熱い思い(無理難題)を実現するのに、裏技的というか、一時しのぎの技をいくつも開発しました。今では編集ソフトも向上して、必要のないテクニックになりましたが、スキル向上に役立ち、お育ていただいたと感じています。ありがとうございます。

狭川 西岡 優

記念すべき五〇〇号の会報となり、おめでどうぞございます。会報は手渡しして、直接会えない方には、会長さんに届けて貰っています。

大教会に参拝出来なくとも、様子がわかり、また、教会当番の時には心に掛けて下さるので有り難いです。

鷺尾 南本 サツエ

会報五〇〇号を迎えるような支部はありますか？これは大変誇らしい事だと思っています。この会報が教会の枠を越えて旭日支部婦人会の会員を繋いでいます。私が責任をいただきました時の会報は、非常に真面目なもので文章がビッチリと詰まっています。私は不真面目なものですから、紙面の天地の余白を増やし、段落を増やし、写真入れて、ずいぶん文字数を減らしました。また、表紙絵を描いてくださる会員さんの絵が映えるようにと茶色いわら半紙から白い今の用紙に変えさせていただきました。会報の高尚さを落とす、経費を増やした犯人は私です。(スママセン)

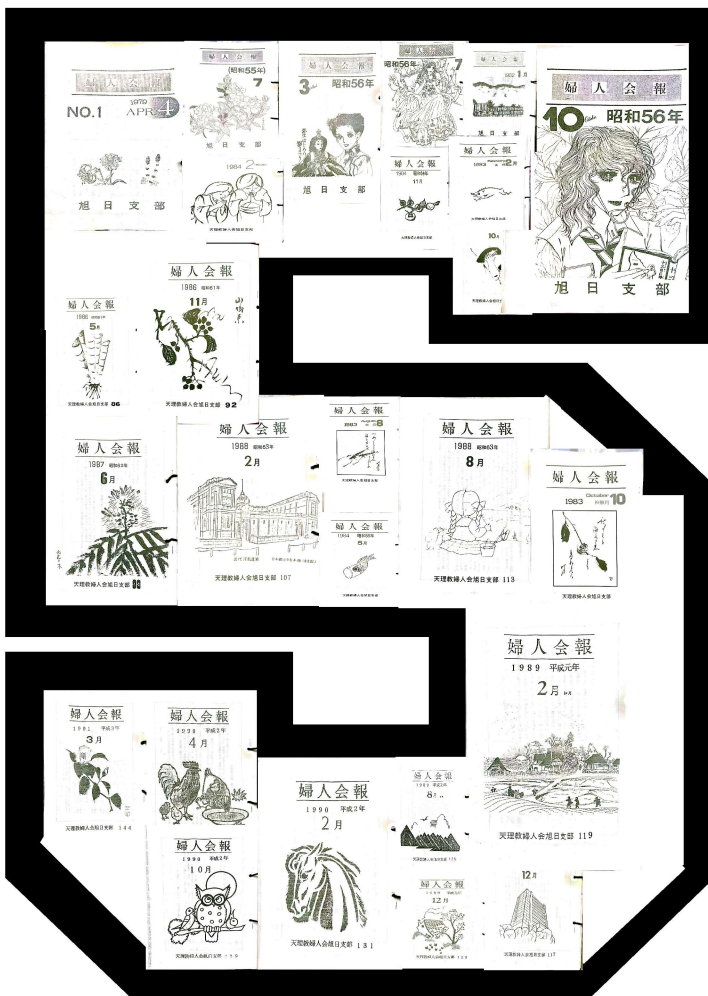
櫛本 松田 和代

たくさんのご寄稿、ありがとうございました。これからも、喜んでいただけるような会報作りにはげみます。次なる塚へ向かって私たちはリレーします！

会報係

500号記念表紙ギャラリー

500号すべてをお見せしたいくらい、素敵な表紙ばかりでした。その時、その時、折に触れた表紙絵。担当して下さった皆様のご苦心は計り知れません。改めまして本当にありがとうございました。



婦人会報が創刊致しまして、今号で500号を迎えさせて頂きました。「婦人会創立七十周年を目指して、会員の丹精をしっかりとさせて頂くように。」と、当時の婦人会長様より頂いたお言葉により、前支部長様が旭日支部につながるどの委員部にも、もれなく活動方針を伝えさせて頂き、足並揃えて勇んで活動に参加頂きたいとの熱い思いから、発行に至ったと聞かせて頂きました。

創刊当時は今のような便利な機械は何もなく大変なご苦勞をされ、一つ一つ大切に心を込めて、作られたのだろうと『婦人会報』の長い歴史に思いを馳せることができます。

これからも、当時の熱い思いを胸に会員の皆様にお届けさせて頂きたいと思っております。



陽気づくめの心

朝和委員部

村井

明子

新しい年が明けて早ひと月が経ちました。今年は元旦祭もほぼ内々でつとめ、御本部のお節会も無く、私自身お正月気分に浸ると言うことは無かつたように思います。

日本でコロナウイルスの感染が確認されてから一年、感染の拡大は依然留まるところを知りません。当初は得体の知れぬウイルス到来にマスクと除菌剤獲得に走りまわり、報道される感染情報をくいいるように見ている毎日でした。日が経つにつれ予定していた行事の中止が次々と発表されると、予想はしていたものの行事ありきでプログラムされていた私の頭の中には空白が出来、戸惑い、今まで当たり前に崩れてきた物事がこんな簡単に崩れていくものなのかと人間の無力さを痛感しました。同時に、大勢で活動することで信仰し

ているような気になっていた自分を反省し、一人の信仰者のしての在り方はどうであったか、教えに添う日常であったかと、問い直していました。

現在、コロナウイルスの感染は世界中に広がり、医療現場もひっ迫し、多くの人が困難な状況にあります。各国で行動の制限などいろいろな対策がとられ、ワクチンの接種も少しずつはじまりましたが、まだまだ終息の兆しは見えません。神様の思いはどこにあるのでしょうか。

私達は成ってくることにはすべて、親神様の深い親心が込められていると聞かせて頂きます。そしてその神意は原典と教祖「ひながた」に求めることが出来ます。

せかいにハこれらとゆうているけれど月日さんねんしらす事なり

(一四・二二)

この度の感染拡大に、信仰する誰もがこの「おふでさき」を思い浮かべたのではないのでしょうか。今から一四〇年ほど前の明治十二年六月、日本全国でコレラが

大流行し罹患者は十六万人以上、死者は十万人以上におよんだといひます。当時、コレラは発病して三日のうちに死ぬので「三日コロリ」ともいわれたそうです。このおうたはその時によまれました。「世間ではコレラといつて騒いでいるけれど、これは親神の「さんねん」を知らしているのである」と言われるのです。

そして、続いて
せかいちうどこの人でもをなち事
いつむばかりの心なれとも

(一四・二三)

これからハ心しいかりいれかへて
よふきづくめの心なるよふ

(一四・二四)

月日にわにんけんはじめかけたのわ
よふきゆさんがみたいゆへから

(一四・二五)

とあります。「世界中の人間は、親神の目から見ると、みないずむばかりの心である。そうした心をすつきりと入れ替え「陽気づくめの心」になつてもらいたい」そして、「親神が人間をはじめかけたのは、人間が陽気遊山をするのを見て共に楽しみたいと思つたからなのだ」といわれるのです。コレラの流行は、「陽気づくめの心」に早くなつてもらいたいという親神様からのメッセージであるといえるのです。

この度のコロナウイルス感染も神様の同じ思いが込められている、と考えられるのではないのでしょうか。今、信仰するお互い一人ひとりが「陽気づくめの心」に近づく努力をすることが、一日も早い終息のご守護を頂くことであるのだと思うのです。「陽気づくめの心」とはどんな心なのでしょう。

我が家のことになりましたが、会長の曾祖父（信仰の初代）はまさにこの明治十二年六月、突然コレラのように上げ下しに苦しみ、水

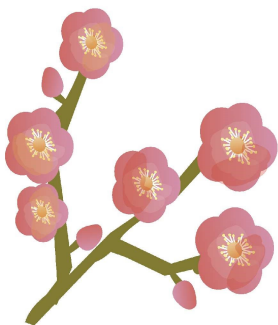
も喉を越さず、自分の唾さえ飲み込むことが出来ない状態で三日が経ち、四日目の朝、家内中神様のお話を聞かせて頂き、道一条のつとめと、講を結ぶ心を定めて、翌日には鮮やかにおたすけ頂いたのです。

曾祖父は後日、「体は自分のものであると思つていたが、教えを聞いてそれは心得違いであつたこと、人間は親神様の懐の中で、十全の御守護をいただいで生かされて生きているということ」、その真実に目覚めた驚きと喜びを書き記しています。曾祖父は四年後に直しますが、その感謝と喜びを心に最後までつとめきました。

「陽気づくめの心」とは、明るく陽気な心というだけでなく、「かりもの」のご守護の世界のなかに生かされて生きる「感謝と喜び」、そこから生まれてくる、何を見ても、何を聞いても、うれしい、楽しいと感じられてくる心、そのような心ではないのでしょうか。神

様はそのような心に入れ替えてくれと言われるのだと思うのです。

コロナウイルス感染拡大により私達の日常は大きく変わりました。誰もが先が見えず不安を抱え、また困難な状況の中で暮らしている方が多くおられます。でも、親神様は片時も休まずこの世界をご守護下さり、身の内に入り込んで働き下さっています。日々その感謝と喜びの心をもって、何を見ても何を聞いても、うれしい、楽しい「陽気づくめの心」で、一日も早い感染終息を願いながら、今年も勇んで通らせて頂きたいと思えます。



立教百八十四年委員部長講習会（第四十八回）ご案内

・ 日時 令和三年二月二十五日（本）

午前九時十五分 受付

三十分 開講

おとめ

・ 場所 旭日大教会

・ 対象者 委員部長（若しくは委員部長代理）

・ 内容 大教会長様メッセージ
支部長挨拶

教理勉強会「おとめについて」 グループワーク

・ 参加費 一〇〇〇円

・ 持ち物 ハッピー 筆記用具 作成したワークシート

※必ずマスクを着用して下さい。

※宿泊されます方は各自で大教会事務所までお申し込み下さい。

※代理の方が出席の場合は、直屬を通して、その旨を「報告下さい」。

9:15	受付	一階ロビー
9:30	開講 おとめ 大教会長様からメッセージ 支部長挨拶	神殿
10:00	移動	
10:10	教理勉強会 「おとめについて」 グループワーク	一号館各部屋
12:00	発表（司会者5名） 新委員部長任命 司会より連絡 閉講	神殿
12:30	解散 弁当、お茶配布 (食事場所として会議室を利用いただけます。)	一階ロビー

三月例会案内

日 時 三月五日 (金) 午前十時
場 所 旭日大教会
内 容 教祖祭
お願いごとめ
よろづよ八首
お話 (おふでさき第二号より
磯城委員部 藤井綾子)
弁当配布



三月例会役割

属 者	庄司 英美	関 薫
賛 者	前田 理恵	山本 ひとみ
指 込 方	村井 明子	

※三月の鳴り物当番はありません。

三月月次祭当番

※三月の炊事当番・託児当番はありません。

コロナウイルス感染拡大の折、
世界のたすかりを 祈り二月より
「教祖祭」後お願いごとめを
させていただきます。



発行日
令和三年二月五日

発行者
岡本道子

発行所
天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部